

包括的な学校改善の推進について

函館市立桔梗小学校
学 級 数 27
(校長 佐々木 正幸)

I はじめに

本校は、令和元年度から「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校として、包括的な学校改善と実践的な校内研修を行い、学校力を高める取組を進めてきた。今年度から地域指定校の中核校として、前年までの取組の成果を生かした学校改善の取組を管内の学校に発信するとともに、地域の小・中学校に取組の成果を波及させるよう取り組んでいる。

II 包括的な学校改善に関する取組内容

1 学校マネジメント

(1) 客観的な数値目標の設定と学校評価を連動させたマネジメントサイクルの確立

本校では、年4回の学校力向上に関する評価、年2回の教育実践に関する評価、年1回の分掌業務に関する評価及び児童・保護者アンケートを実施し、客観的な数値から学校マネジメントの評価を行っている。

また、学校力向上に関する取組について、数値目標を設定し、結果の要因を分析することで、課題を明確化し、改善に向けて焦点化して課題解決に努めた。さらに、それぞれの評価を関連付けることで、より客観的な評価結果として分析し、学校マネジメントに活用している。

項目	目標値	評価値	目標値	評価値
1 学校の検証改善サイクルの迅速化が図られていますか。	79	78	78	80
2 「検証スタンダード」により学習規律の共有・徹底が図られていますか。	82	80	82	90
3 異時・異場所などのICT活用を積極的に活用した指導が行われていますか。	91	91	91	88
4 各種研修（メンター研修やテーマ研修等）が指導力の向上に役立っていますか。	82	85	82	80
5 ①・②③4月からの単元テストの学校平均値。（国語の平均+算数の平均）+2	90	91		88
6 ③・④⑤4月からの単元テストの学校平均値。（国語の平均+算数の平均+理科の平均+社会の平均）+4	86	87		80
7 ⑤・⑥⑦4月からの単元テストの学校平均値。（国語の平均+算数の平均+理科の平均+社会の平均+外国語の平均）+5	86	86		87
8 学年学習の学習時間。学年×10分+10分を守っている児童の人数がクラスの何割ですか。	82	73	72	85
9 生涯リズムチェックシートの実行率はクラス全体の何割ですか。				85
※ 学習職員・SSOとの連携を強化することにより、負担軽減が図られていますか。	84	90	94	80
※ 地域住民等の協働により、学校運営の推進が図られていますか。	74	76	78	80
※ 地味な取り組み、進捗が遅った数値目標を達成していますか。	88	81	87	90
※ 指導者を減らすことを意識していますか。	83	79	78	90
※ ほかのことで指導することができていますか。（他者・他務へ注意するよりも）	83	81	80	90
※ 授業や空白の時間を有効に活用されていますか。	85	82	84	90
※ 授業等の評価結果・終了時刻を守っていますか。	90	86	88	90
※ 子どもを呼び捨てや、ニックネームで呼ばず、丁寧に名前を呼んでいますか。	91	89	94	90

【学校力向上に関する評価の分析】

(2) 課題の要因分析を踏まえた年度の重点の明確化と手立ての共有

学校評価を通して見いだした成果と課題の要因を明らかにすることで、次年度の課題解決の方向性を具体的に示した。このことで、次年度の学校マネジメントの重点を教職員間で共通理解し、学校全体で統一感をもって学校改善に組んでいる。

2 落ち着いた学習環境

(1) 学習環境の統一

児童が小学校生活6年間を通して、見通しをもって落ち着いて学習に取り組むことができるよう、教室の掲示物の精選、机上や机の中の学習用具の整理及びロッカーの使い方等を児童に例示するとともに、全ての教室で徹底している。

また、学習環境の整備について学校評価等で見直しを図り、年度当初に全ての教職員で共通理解した上で児童と共有し、児童が主体的に落ち着いて学習できる環境の設定に努めている。



【学習環境の様子】

4 人材育成

(1) 校内研修の充実

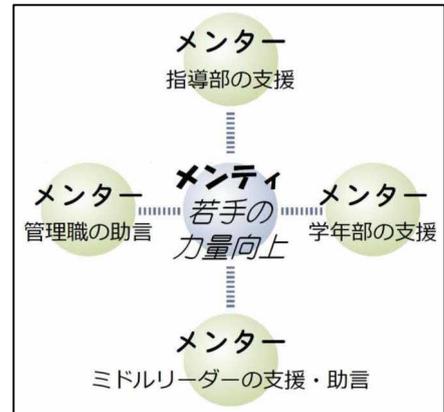
校内研修は、テーマ別研修及びミニ研修を各3回の計6回行い、学級・学年経営に関わること、特別支援教育を視点とした授業のユニバーサルデザイン化及び外国語科やプログラミング教育に関する授業等、実践的指導力の向上に向け、研修を積み重ねている。校内研修は、学力向上推進部が中心となり、情報教育推進部や特別支援教育推進部等も講師として参加するなど、研修の運営はテーマに応じて組織的に行っている。



【校内研修の様子】

(2) メンター研修の推進による若手教諭の計画的な育成

メンター研修は、人材育成推進部が企画・運営し、計6回行っている。中堅教諭が講師となり、学級経営や授業づくりについて、課題解決に向けた協議を行うことで、相互に研鑽を深めることで人材育成を図っている。



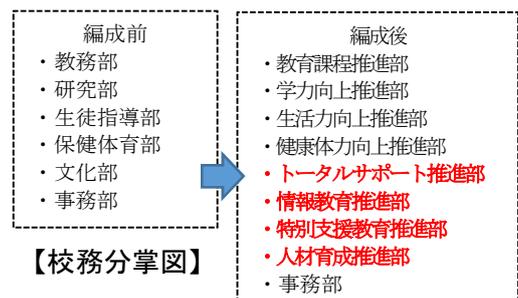
【メンター研修図】

5 働き方改革

(1) 校務分掌の再編成

昨年度から本格的に働き方改革を進め、校務分掌の再編成に着手するとともに、学校経営方針に基づき、必要な業務を精査し、各分掌の役割を明確にした。

また、分掌の教員配置を工夫することにより、学級担任の業務軽減につなげるとともに、学校行事の精選・充実及び授業改善の促進に努めている。



【校務分掌図】

(2) 校務支援システムやICTの活用による業務の効率化

昨年度から校務支援システム（C4th）を導入し、行事予定等の教職員間の連絡、児童及び教職員の出欠管理及び児童の成績管理等、学校業務全般を一元的に管理している。朝の児童の出欠確認や教職員への連絡等、学校内のどこにいても確認することができ、業務の効率化を図ることができた。

また、Wed会議システムを活用した児童集会等を実施し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めるとともに、時間短縮を行った。



【校務支援システムの画面】

Ⅲ 実践の成果（○）と課題（●）

- 学校の総合力を高めるために包括的な学校改善に取り組んだことで学校マネジメントが加速するとともに、この取組の成果を地域の小・中学校に波及させることができた。
- 今後も児童一人一人の可能性を伸ばし、確かな学力を身に付けることができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の習得及び思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、授業改善を学校改善につなげていく取組を構築する必要がある。